

## 🌙 ハッジ（巡礼） 🌙



### ハッジとは？

#### ハッジ研究

- はじめに
- ウムラのやり方（1）
- ウムラのやり方（2）
- ハッジのやりかた
- 預言者モスク訪問

## 🌙 ハッジとは？ 🌙 新着

### Q1: ハッジとは何ですか？

ムスリム（イスラーム教徒）が実践しなければならない「イスラームの五柱」の一つで、決められた時期にサウディアラビアのマツカで巡礼することです。日本語では「大巡礼」とも呼ばれています。

### Q2: ハッジが行われるのは何時ですか？

毎年イスラーム暦の12月に始まります。この月はアラビア語で「ズルヒツジャ」と呼ばれています。

### Q3: 全てのムスリムがハッジを行わなければならないのですか？

成人ムスリムで、肉体的・経済的に可能な者がこの義務をまつとうします。

### Q4: ハッジのための特別な服装があると聞きました。どのような服装なのですか？

男性は白い二枚の布を身にまとい、ハッジを行います。これによって階級や文化の違いなく、全ての人々がアッラーの前で決められた儀式を行います。

**Q5: 簡単に言うとハッジではどのようなことを行うのですか?**

ハッジの儀式は、預言者イブラーヒームにその源泉を見ることができます。カアバ神殿の周りを7周するタワーフ、イブラーヒームの妻ハージャルが水を求めて行ったサファーとマルワの丘の間を7回行き来するサアイ、アッラーの許しを求めて祈るアラファートにおける祈願などを行います。

**Q6: ハッジは何回行わなければならないのですか?**

可能であれば、一生のうち一回行えばよいことになっています。

**Q7: 預言者ムハンマドは何回ハッジを行ったのですか?**

一回行いました。

**Q8: ウムラとは何ですか?**

マツカに巡礼することで日本語では小巡礼と呼ばれています。

**Q9: ハッジとウムラは同じではないのですか?**

行わなければならない儀式の内容が若干異なります。

**Q10: ウムラは何時行われるのですか?**

一年中いつでも好きな時に行うことができます。ハッジのように特別決められた時期というのはありません。

**Q11: ウムラは一生のうち何回行うものですか?**

特に決められた回数はありません。預言者ムハンマドは一生のうち4回ウムラを行いました。

**Q12: 飛行機などがなかった昔はどのように人々はマツカに集まったのですか?**

何ヶ月もかけて歩いてくる者、らくだなどの動物の背に乗って来る者などがいました。マツカから遠く離れたところから来る者はそれだけ時間をかけて来るわけですから、マツカを目指して故郷を出たものの、途中で亡くなる人たちもたくさんいました。

**Q13: ハッジとはとてもたいへんな儀式なのですね?**

はい。ハッジの義務をまつとうできたムスリムは非常に幸せな気持ちになり、多くのハッジ経験者はできればもう一度ハッジに行きたいと思うようになります。

## はじめに



ハッジはイスラームの柱の一つである、最も徳のあるイバーダート（崇拜行為）の一つです。そして、これらのイバーダートがアッラーのもとに受け入れられるには、次の二つのことに留意しなければなりません。

- 1 アッラーただその御方のため、そして来世のためにイバーダートを行うこと。見栄や評判のために行わないこと。
- 2 言葉と行動によって、預言者（アッラーよ彼に祝福と平安を与えたまえ）に従うこと。このためには正しい知識をもった学者たちから預言者のスンナを学ばなければなりません。そして、預言者のスンナの相続人ともいえる学者たちはイバーダート、アフラーク（人格）、ムアーマラート（人々との間の執り行い）において、そのスンナを実行していかなければなりません。そして、それをウンマ（イスラーム共同体）に伝え、知識を求めること・行為・学んだことの伝達・宣教を人々に呼びかけなければなりません。

以下はハッジとウムラに関することの要約です。

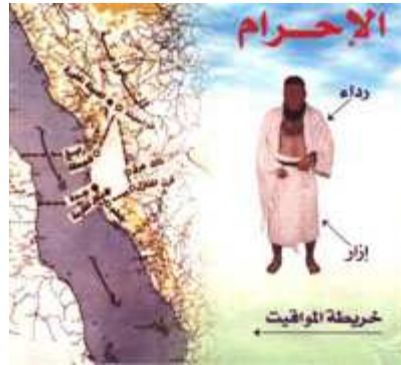
## はじめに

- 1 水が見つからなかったり、水があるものの、飲食用として必要な場合、旅行中の人にはタヤムム（水を用いなくてタハーラを行なう方法）がゆるぎされます。しかし、礼拝の時間内に水のあるところにとどり着ける可能性が高かった場合、その水にとどり着いた時にタハーラ（ウドゥーやグスルなど）を行うため、礼拝を遅らせる（もちろん時間内で）ことが好ましいとされています。
- 2 旅行している人の権利として、彼がその土地を出てから、そこに戻るまで、期間が長引こうとも、4ルクアの礼拝を2ルクアに短縮することができます。  
アルブハーリーの伝承によると、イブンアッバースは「預言者がマツカ開放の年に、4ラカート（4ラカート）の礼拝を2ラカートにされて、マツカに19日間滞在し、また、タブークには礼拝を短縮され、20日間滞在された」と伝えています。  
しかし、もし旅行中の者が、4ラカート礼拝するイマームについて礼拝をする場合、その者が1ラカート目からイマームのあとについたとしても、あるいは途中からついたとしても、イマームにあわせて4ラカートの礼拝を行います。遅れた分は、イマームがサラームをした後に行います。これは、預言者の「イマームとは、人々が彼をまねるためにあるのだから、彼と異ならないようにしなさい。」という言葉によります。そして「追いついた分は礼拝し、失われた分は完成させなさい。」という言葉によります。また、イブンアッバースは次のように尋ねられました。「1人で礼拝を行う時には2ラカート礼拝し、居住者のあとについて礼拝する時は4ラカート行う旅行者についてどう思われますか？」すると彼は「それはスンナです」と言いました。そして、イブンウマルは旅行中、居住者であるイマームとともに礼拝した時は4ラカート、1人で礼拝した時は2ラカート行いました。
- 3 旅行者の権利として、もし、必要であれば、ズフルとアスルの礼拝、そしてマグリブとイシヤ

一の礼拝を集めてすること（ジヤムウ）ができます。例えば、道を進み（徒歩・乗り物などで）続けているときなどです。その場合、ジヤムウ・タクデイーム（後の礼拝を前の礼拝と合わせて先に行くこと）または、ジヤムウ・タアヒール（前の礼拝を後の礼拝に合わせて後で行うこと）のうち、よりやり易いやり方でジヤムウを行います。

もしも、このジヤムウが必要ない場合はジヤムウを行いません。例えば、出発前に次の礼拝の時間に入る時などです。このような場合、それぞれの礼拝をそれぞれの時間に行います。

### アルマワーキート（イフラームを行なう場所）



「アルマワーキート」とは、「ミーカート」というアラビア語の複数形で、預言者がハッジとウムラを行う者が、そこからイフラームを行うために定めた場所のことです。アルマワーキートは5つあります。

- 1 **ズルフライファ**（アビヤール アリー。アルヒサーとも呼ばれます）  
アルマデーナの住人とアルマデーナ滞在者はここを通り過ぎる前にイフラームをしなければなりません。
- 2 **アルジュフファ**  
最近では人々は**ラービグ**からイフラームをするようになりました。ここはシヤームからの人々と、この滞在者のミーカート（イフラームを行なう場所）です。
- 3 **ヤラムラム**（山またはテイハーマにある場所）  
ここはヤマンの人々とこの滞在者のミーカートです。
- 4 **カルヌルマナーズイル**（アツサイル）  
ナジドの人々とその滞在者のミーカートです。
- 5 **ザートイルク**（アツダリーバ）  
イラクの人々とその滞在者のミーカートです。

これらの場所よりもマツカに近い場所にいる者とマツカ住人のミーカートはそれぞれの滞在場所がミーカートになります。

また、これらの場所の左あるいは右に滞在している者は平行線が、自分により近いミーカートがその者のミーカートになります。

飛行機に乗っている者は飛行機がミーカートの上空を通り過ぎるまでに準備をし、イフラームの服を着なければなりません。そして、通り過ぎる時にイフラームのニーヤを行います。飛行機に乗った人で空港についてからイフラームを行う人がいますが、これは間違いです。

また、ハッジとウムラ以外の目的でマツカに向かう人はイフラームを行う必要はありません。これは「ミーカートはハッジとウムラを望む者のためにある」という意味のハディースからきています。

ハッジには3つの行い方があります。  
タマツトウウとイフラードとキラーンです。

### 1 アルタマツトウウ

ハツジの期間にウムラのためのイフラームを行います。そしてマツカについたらタワーフとサアイをウムラのために行います。そして髪を剃るか切ります。そしてズルヒツジヤの8日目（ヤウムツタルウイヤ）にハツジのためのイフラームを行いハツジ中に行う全てのことを行います。

### 2 アルイフラード

ハツジのためのイフラームを行います。そして、マツカについたらアルクドウームのタワーフ（マツカについた時のタワーフ）を行いサアイを行います。その後、髪を剃らず、切らず、イフラームを解かず、ムフラムのままです。そして、イードの日のジエムラトウルアカバのラミー（石投げ）の後、イフラームを解きます。ハツジのサアイをハツジのタワーフの後に遅らせても問題ありません。

### 3 アルキラーン

ウムラとハツジの両方のためのイフラームを行います。または、まずウムラのためのイフラームをし、それからウムラのタワーフを始める前にハツジに入ります。キラーンのやり方で行うこととイフラードで行うことは同じです。違いは、キラーンを行う人はハデイー（犠牲）を行うことが義務付けられ、イフラードを行う人はハデイーは義務付けられません。

この3つの種類の中で最も徳の高いのはタマツトウウです。これこそ預言者がサハーバたちに命じ、また奨励したやり方でした。また、もしキラーンまたはイフラードのイフラームを行った者でも、ムタマツテイアンになるためにイフラームをウムラのためのものに変えるほうが良いことを強調しています（タワーフ・サアイの後でも）。というのも、別れのハツジの年に預言者がサハーバとともにタワーフとサアイを行った時、ハデイー（犠牲）を持っていない者にイフラームをウムラのものに変え、髪を切り、イフラームを解くように命じ、「もしも、ハデイーを持っていたら、私はあなた方に命じたように行つたでしょう」と言いました。これは、あるものがムタマツテイウとしてハツジまでのウムラのイフラームを行い、その後、アラファの日の前にウムラを終えることが出来ないこともあるからです。

そのような時には、ハツジがウムラの中に入り、その人はキラーンを行うことになります。

例1) ハツジの前にウムラをするとして、タマツトウウをウムラのためのイフラームによって開始した女性がタワーフの前にハイド（月経）またはニファース（悪露）の状態になりました。そしてタハーラの状態になる前にウクフルアラファ（ズルヒツジヤ9日目にアラファの丘に立つこと）の時間がやってきました。この場合、彼女はウムラ中にハツジを行うニーヤをし、キラーンのやりかたでハツジを行います。

そしてイフラームの状態のまま残り、タハーラの状態になり、グスルを行うまで、タワーフとサアイを除くすべてのハツジ中に行うことをします。

例2) ハツジの前にウムラをするとして、タマツトウウをウムラのためのイフラームによって開始したが、アラファの日の前にマツカに入ることを困難にする問題が彼に起こった場合、ウムラ中にハツジを行うニーヤをし、キラーンのやりかたで、イフラームの状態のまま、ハツジを完了させます。

### ハデイー（犠牲）を必要とするムフリム（イフラームを行った人）

これはタマツトウウとキラーンのやり方でハツジをする人です（それぞれ、ムタマツテイウ、カーリンと呼ばれる）。

### ムタマツテイウ

ハツジの期間中（シヤウワール月以降～）にウムラによるイフラームをする人のことです。もしもシヤウワール月に入る前にウムラによるイフラームをした人はムタマツテイウではなく、マツカでラマダーンの断食をした・しなかつたにかかわらず、ハデイーは義務付けられません。シヤウワール月以降イフラームをしたものはムタマツテイウとなり、その条件を満たしていれば、ハデイーが義務付けられます。

※ 一般の人がよくいう、「マツカで断食をしたらハデイーは義務ではなく、しなかつたら義務」というのは間違いです。

## カーリン

ウムラとハッジ両方によるイフラームをする人のことです。また、ウムラでイフラームをし、その後、ウムラのタワーフをする前にハッジをそのウムラの最中に行う人のことです。

次の条件を満たす者だけがハデイー（犠牲）が義務ではなくなります。

ハーディルルマスジドルハラームの人たち：この人たちにはハデイーをする義務はありません。

## ハーディルルマスジドルハラーム

ジュルムの住人とその近くに住んでいる人（その場所とハラームの間の距離がサファル（旅）の距離とみなされない人たち（シヤラーイウの人々など…）のことです。彼らにはハデイーは義務付けられません。それ以上の距離で少し遠くに住んでいる人（ジエツダの人々など）にはハデイーが義務付けられます。

また、マツカ住人のうち、知識を求めため、または、それ以外のためにマツカを出ていて、マツカにムタマツテイウとして戻ってきた人にはハデイーは義務とはされません。というのも、重要なのはその人の滞在地・居住地であり、この例の場合それはマツカだからです。

もしマツカ以外のところへ住むために転居し、ムタマツテイアとして帰ってきた時にはハデイーが義務付けられます。

## ムタマツテイウとカーリンに義務とされる犠牲

犠牲として捧げるのに有効とみなされる動物は羊、または7頭のバダナ、または7頭の牝牛です。もし、それが手に入らない場合は、ハッジ中の3日間の断食と家族の下に戻った時の7日間の断食が義務付けられます。これらの3日間の断食はタシユリークの日々（ズルヒツジヤ11、12、13日）に行ってもよいことになっています。また、ウムラのイフラームのあとに断食してもよいのですが、アラファの日と、イードの日は断食をすることが禁じられています。これは預言者がイードの2日間（イードルフトルとイードルアドハー）とアラファの日の断食を禁じたためです。この3日間の断食は連続して行うこともばらばらに行うことも可能です。ただし、タシユリークの日より後に遅らせることはできません。また、帰省後の7日間の断食も連続で行ってもばらばらに行ってもよいことになっています。

## 犠牲を屠る日々は4日間

イードの日とその後の3日間がザバハ（屠ること）をすることが可能になります。その前にザバハを行った場合その羊はハデイーとはみなされません。これも預言者のスンナによるものです。「私が行ったように宗教行事を行なえ」「タシユリークの日々すべてザバハをしてよい」

これらの日々、ザバハを昼夜問わず行うことが可能ですが、昼間の方が良いといわれています。また、ミナーまたはマツカでザバハは可能ですが、ミナーのほうが良いといわれています。しかしながら、マツカで行った方がそこにいる貧者のためにより効果的だった場合には貧者のためになるほうをとるべきです。

義務付けられたハデイーや断食は、信者に対する何の効果のない罰でも、疲労させるためのものでもありません。これは宗教行事を完了させるためのもので、アツラーからの慈悲でもあります。そして、信者がアツラーに近付くためであり、報奨を受け取るためです。残念ながら、多くの人々はこれの効果に注目せずハデイーの義務から逃れようとし、そのために奔走し、ハデイーを行わないためにハッジをイフラードで行おうとし、自分たちがアツラーからの報奨を得ることを禁じているのです。

## ウムラのやり方（1）



ウムラのためのイフラームを行おうとした場合、まずグスルを行い、頭と顎鬚に香をつけます。この香りはイフラームの後まで残っても問題ありません。

2つのサヒーフに載っている伝承によると、アーイシャは言いました。「預言者がイフラームを望んだ時には香水をつけ、そのあとに頭と顎鬚にミスク（麝香）をつけました」

イフラームの際のグスルは男・女・月経中の女性・出産後の悪露の状態の女性に対するスンナです。これは預言者が、アスマービントウマイスが悪露の状態にあつたときイフラームの際、グスルをし、布をしいて（ナブキンなどをして）イフラームをするように命じたことに由来しています。

グスルの後には香りをつけ、イフラームの服を着ます。そして礼拝をし（義務またはスンナ）、イフラームのニーヤをし、「ラツバイカツラーフンマ ラツバイカ ラツバイカ ラー シヤリーカラカ ラツバイカ インナルハムダ ワンニイマタ ラカ ワルムルカ ラー シヤリーカラカ」といいます。意味は「ウムラのために私はここにいます。アツラーよ私はここにいます。讚美と恩恵と権力はあなたのもとにあります。」です。男性はこれを声を大きくして言い、女性はそばにいる人が聞こえる程度の声でこれを唱えます。これは**タルビヤ**と呼ばれる言葉です。

また、何らかの理由で、自分がウムラを完了させることができないことを心配する者（病気など）はイフラームのニーヤの際次のようにニーヤします。「もし誰かが私を捕まえたなら私はその場でイフラームを解きます。また、病、遅延、その他のことによつてウムラを完了することができないことに遭遇した場合私のイフラームを解きます。」

これは預言者がダバーアビントズバイルが病気にもかかわらず、イフラームをしようとした時、このように条件をつけるように命じたからです。

この条件をつけた場合、途中でイフラームを解いても何かを課されることはありません。

また、間にも心配事のない人は条件をつけずにニーヤします。これもスンナです。

また、ムフリムはタルビヤを数多く言うことが奨励されます。特に状況や時間が変わる時（上に上がる時、下に降りる時、夜になったとき、朝になったとき）です。そしてその後、アツラーに彼のご満悦と樂園を求め、彼の慈悲によつて地獄の炎から逃れることを求めます。

ウムラでのタルビヤはイフラームからタワーフを始める時まで、ハッジの場合は、イフラームからイードの日のジヤマラトウルアカバの石投げを始める時までです。

マツカに近付いたらそこに入るために、グスルをするのがスンナです。

そして、マスジドルハラームに入ったら右足から入り、ドウアーを言います。

「ビスミツラー、ワツサラート ワツサラーム アラー ラスーリツラー、アツラーフンマダフィールリー ズヌービー、ワフタフリー アブワーブ ラハマタカ、アウーズビツラーヒルアズイーム、ワビワジエヒルカリーム、ワビスルターニヒルカデイーム ミナツシヤイターニツラジーム」（アツラーの御名において、祝福と平安がアツラーの使徒にありますように、アツラーよ私の罪を許してください、そしてあなたの慈悲の扉を開いてください、私は偉大なるアツラーにシヤイターンからの庇護を求めます。）

## タワーフ



それからタワーフを始める為に黒石のところへ行き、右手で触り、口づけします。それが困難な時は触った手に口づけします。それすらも困難な時は石の方を向き、手をそちらへ向け、口づけはしません。押し合うと自分にも他人にも害を与える可能性があるので、無理はしないようにしましょう。預言者はウマルに「あなたは屈強な男だから、押し合うと弱者に迷惑がかかるでしょう。人がいなかったら石に触れなさい、それ以外はその方を向きラーイラーハイツラツラー、とアツラーフアクバルを唱えなさい。」と言いました。

石に触る時には次のように言います。「ビスミツラー ワツラーフアクバル、アツラーフンマ イマーナン ビカ、ワタスディーカン ビキタービカ ワワファーアン ビアハデイカ ワツテイバーアン リスンナテイ ナビーイカ ムハンマデイン サツラツラーフ アライヒ ワサツラム」(アツラーの御名において アツラーは偉大なり、アツラーよあなたを信じます、あなたのキターブ(クルアーン)は真実を述べています、あなたとの契約を守ります、そしてあなたの使徒ムハンマドのスンナに従います)



そしてカアバを左手にして右回りに進み、アツルクヌルヤマーニーに着いたらそれに触れ、口づけはしません。ここでも混み合っていたら無理はしないことです。そして、ルクヌと石の間でドウアーを言います。

「ラツバナーアーティナー フィツドニヤーハサナタン ワフィルアーヒラテイハサナタン ワキナー アザーバンナール」(主よ、私たちに現世でも善いものを与え、来世でも善いものを与え、私たちを炎の罰から守ってください)

そして石を通り過ぎるたびにタクビールをし、残りのタワーフ中は好みのズイクル・ドウアー・クルアーン読誦をします。

※ タワーフ、サアイ、石投げはアツラーを唱念するために定められました。タワーフの時の一回りを1 シャウト(複数はアシユワート)、サアイの時の片道を同様に呼びます。





これでタワーフの1シヤウトで、男性はさらに次のようにします。

- 1 タワーフの最初から最後までイドテイパーウをします。これはリダー（上半身にかける布）の真中を右脇下にはさみ、両端を左肩の上にかけることです。タワーフ後はもとに戻します。
- 2 1～3シヤウト目ではラムル（急ぎ足で歩くこと）をします。残りの4シヤウトは普通に歩きます。



7シヤウト目のタワーフを終えたら、マカームイブラーヒームで次のように読みます。  
「ワツタヒズーミンマカーミーブラーヒーマムサツリヤー」それからその後ろで2ラカートの礼拝をし、1ラカート目にはファーテイハの後にカーフィルーン章を2ラカート目にはイフラス章を読みます。その後、黒石にもどり、できればそれに触れます。

## ウムラのやり方(2)



それからサアイの場所に出ます。サファーに近付いたら「インナツサファー ワルマルワタ  
ミン シヤアーイリツラー」というアーヤを読みます。それからサファーに上り、カアバが見  
えたらそちらを向き両手を上げアツラーを称え好きなドウアーを言います。



預言者はよく次のドウアーを言いました。

「ラーイラーハ イツラツラーハ ワハダフ ラー シヤリーカ ラフ、ラフル ハムド ワ  
ラフルムルク ワフワ アラー クツリ シヤイイン カデイール。ラーイラーハ イツラツ  
ラーフ ワハダフ アンジヤザ ワアダフ ワナサラ アブダフ ワハザマルアハザーバ ワ  
ハダフ」

これを3回繰り返してそれぞれのドウアーのあいだに好みのドウアーを唱えました。

それからサファーからマルワへ歩いておりていきます。緑のしるしに着いたらできる限りおも  
いきり走ります。これもスンナです。2つ目の緑のしるしに着いたらマルワに上るまで普通  
歩きます。



マルワについたらキブラの方を向き、サファーで言ったことを言います。歩くべきところは歩  
き、走るべきところは走ります。片道1シヤウトを7回行います。サアイの最中ズイクル、ド  
ウアー、クルアーンを読みます。



サアイがすべて終わったら、男性は髪を全て剃り、女性は小指の分だけすべての髪を切ります。預言者は剃った人のために3回のドウアーを、切った人のために1回のドウアーをしました。男性でも次にハツジを控えている時は短くきるだけにします。

イフラーム、タワーフ、サアイ、ハルク（剃ること）またはタクスイール（短くすること）で、イフラール（イフラームを解くこと）が完了します。その後は通常の生活に戻ることが出来ます。

### イフラーム中に禁じられていること

#### I、男女ともに禁じられていること

- 1 髪や体毛を剃ったり抜いたりすること。ただし、そうしなければ害になる場合は可、何も課されません。頭を手で搔くことはかまいません。自分の意志と関係なく髪の毛が落ちた時は何も課されません。
- 2 爪をきること。ただし、爪が割れたりして、その部分を切らないと害になる時は必要な部分のみを切ります。その際は何も課されません。
- 3 香りのあるものを服、体、その他につけること。サフランの入ったコーヒーを飲むことも禁じられます。料理などで、香り、味が消え、色だけが残っている場合は構いません。
- 4 欲望を伴った視線、行為
- 5 手袋をつけること
- 6 鹿、兎、鳩、イナゴなど、陸に生息する野生のハラール動物を殺すこと

※ 海のもの、野生でない鶏は捕ってもよい。

※ イナゴが大発生していて、足の踏み場がない場合などは自分の意志とは関係ないので踏んでしまっても何も課されない。

※ 木を切ることはハラームではない

ただし、アミヤールルハラムの中にいる人たちにとっては木を切るのはいつでもハラームです。（アラファの木は切ってもよい。ミナー、ムズダリファの木は切つてはいけません。）

枯れた木は切ってもよい。また、歩いていて木にぶつかってしまった時などは何も課されない。

#### II、男性にのみ禁じられること

- 1 縫い目のある服を普段着るように着ること（シャツなど）。シャツをリダーとして着たり、アパーアを上下逆に着たりするのはよい。腕時計、メガネ、リダーの紐などは身につけてもよい。指輪もよい。もしもイザールやそれを買うお金がないときはサラールを着てもよい。サンダルがない時はクツフを履いてもよい。
- 2 頭を覆うこと（そのものが頭につく、帽子、ターバンなどで）。傘などはかまいません。頭を覆うためであれば、頭上に物をのせたり、水に潜ったりしてもよい。

### Ⅲ、女性にのみ禁じられること

顔を覆うこと。ただし、男性がすぐ近くにきた時にはその時だけ隠してよい、そしてなにも課されません。

- A. これらのことを必要ないにもかかわらずわざと行つた場合：罪になり、フィドヤが義務付けられます。
- B. 必要にせまられて行つた場合：罪にはならないが、フィドヤが義務付けられます。
- C. 知らなかつた場合、忘れていた場合、寝ていた場合、強制的にさせられた場合には何も課されません。

### フィドヤについて

#### I 狩猟以外のことに対するフィドヤ

- 1 羊1頭をザバハする（アドヒヤの時の条件と同じ。すべて貧者に配り、自分ではたべないこと）。
- 2 一人あたりサーア2分の1のタムルなどの価値の食事を60人の貧者たちに配る。
- 3 3日間、連続またはばらばらに断食する。

この3つの中から1つ選ぶ。

#### II 狩猟に対するフィドヤ

捕つたものと同じものがある場合

- 1 羊1頭をザバハし、マツカの貧者に配る。
- 2 その価値の分だけ、食べ物を一人2分の1サーアずつ貧者に施す。
- 3 その人数分断食する。

ない場合

- 1 その価値の分だけ食べ物を2分の1サーアずつ施す。
  - 2 その人数分断食する。
-

## ハッジのやり方

タルウイヤの日（ズルヒツジヤ8日）になったらハッジのためのイフラーームを行い、ウムラのイフラーームの時に行ったグスル、香りをつけること、サラートをし、ハッジのニーヤをし、タルビヤを始めます。ウムラでのタルビヤと言うことは同じですが、「ウムラ」という言葉のかわりに「ハッジ」という言葉を入れます。条件付のニーヤのやり方も同じです。



それからミナーに出て、そこでズフル、アスル、マグリブ、イシヤー、ファジユルをジヤムウにすることなく4ラカートのもの2ラカートにして礼拝します。マツカ住人も、その他の人々もミナー、アラファ、ムズダリファではスンナにのっとりカスル（短縮）で礼拝をします。



アラファの日に日が昇ったらミナーからアラファへ進み、できればナムラでザワールへと下ります。これもスンナです。

その後、スンナと同様にウクーフとドウアーの時間を長く取れるようにジヤムウタクデイームでズフルとアスルを2ラカートずつ行います。礼拝後、ズイクル、ドウアー、アツラーに対してへりくだります。このとき山が後ろにあっても、キブラの方を向き、両手を上げ、ドウアーを行います。預言者はこの時よく「ラー イラーハ イツラツラーフ ワハダフ ラー シャリーカ ラフ ラフルムルク ワラフルハムド ワフワ アラー クツリ シヤイイン カデイール」です。途中で飽きた場合には、アツラーに関するのであれば友人と話をしたりしてもよいとされます。その後また、ドウアーなどに戻ります。この機会を逃さないようにしましょう。最も良いドウアーはアラファの日のドウアーとされています。



それから日が沈んだらムズダリファに行きます。そこに時間内についたらマグリブをします。イシャーのあとに着いたらマグリブとイシャーをジヤムウでします。預言者はマグリブの時間に着いたため、3ラカートのマグリブの義務の礼拝をし、スンナをラカートし、夕食をとり、その後イシャーのアザーン、イカーマのあとで、礼拝をしました。（アルブハーリーによる伝承）

ただし、疲労または水不足のため、ジヤムウが必要な場合はそのようにします。また、ムズダリファに着くのが真夜中になりそうな場合は着く前に礼拝をします。そして、ムズダリファで夜を越し、ファジュルになったらすぐにファジュルをします。それからアルマシユアルルハラームを目指し、タウヒード、タクビールの言葉を唱えます。そしてドウアーをします。そこに行くのが困難だった場合、その場でドウアーをします。このときキブラの方を向き両手を上げます。

日の出前にミナーに出発し、ムフサル谷では急ぎます。



ミナーに着いたらジヤムラトウルアカバの石投げをします。その時7粒の石を次々投げます。この石の大きさはタムルの種くらいです。そして投げるたびにタクビールをします。それが終わったらハディーを屠り、男性は髪を剃り、女性は髪を切ります。それからマツカに下り、タワーフをし、サアイをします。

石投げとハルクのあとのタワーフのためにマツカに行く時には香りをつけるのがスンナです。タワーフ、サアイ後、ミナーに戻り、そこで11日目と12日目の夜を越します。そして3種類の石投げをその2日間で行います（ザワールの後に）。石投げは歩いてその場所まで行くのが良いといわれ、それぞれの石投げ後少し前へ進み、長いドウアーをします。2日目も同様です。投げたあと左に立ち、キブラを向き両手を上げドウアーをします。このドウアーは忘れられがちなので、気をつけましょう。その後ジヤマラトウルアカバでも同様にし、そのあとはドウアーをせず、立ち去ります。できればそこに残り、ザワールの後、石投げをします。

12日に石投げを終えた場合、ミナーから下りてもいいですし、遅らせたい場合にはそのまま13日目の夜をそこで過ごし、ザワール（ズフルに入る時間のこと）後に石投げをしてもよいことになっています。

ただし、12日に日が沈みその時その人がミナーにいた場合は、13日のザワール後に石投げを遅らせなければなりません。ただし、日没前に出発のニーヤをしたものの、交通手段の問題などで（バスの遅れなど、自分の意志とは関係なく起こったこと）遅れた場合は遅らせる必要はありません。

マツカから国に戻ることを望んだら月経または悪露の状態の女性以外はタワーフルワダーアを

必ず行いましょう。そのように預言者は命じました。タワーフを免除されている女性たちはマスジドルハラームの門（入り口）のところに別れのために立たないようにしましょう。別れのためにその場所に立つことはスンナではありません。出発を意図した時に別れのタワーフを行います。その後同行人を待ったり、必要な物を買ったり、荷物を積み込むための遅れは構いません、つまり、タワーフをし直す必要はありません。ただし、タワーフの後で出発を遅らせることを意図した場合にはタワーフをやり直します。



## 預言者モスク訪問



ハッジに行った人が預言者モスク訪問を望んだ場合、ハッジの前または後にモスク訪問をすることは構いませんが、その際、「お墓参り」を意図しないようにしましょう。墓参りはイバーダではありません。

スンナでは「マスジドルハラーム、預言者モスク、アルアクサーモスク訪問のために（イバーダとして）は旅をしてもいい」ことになっています。

預言者モスクに着いたら、右足から入り、「ビスミツラー、ワツサラート ワツサラーム アラーラスーリツラー、アツラーフンマダフィルリー ズヌービー、ワフタフリー アブワーバ ラハマタカ、アウーズビツラーヒルアズイーム、ワワジユヒルカリーム、ワビスルターニヒルカデイーム ミナツシヤイターニツラジーム」というドウアーを言います。

その後好むだけ礼拝をします。なるべくこれらのことを、2つの間に楽園の数ある庭のひとつがあるといわれている、預言者の説教台（ミンバル）と、預言者の墓がある彼の部屋の間位置する、ラウダと呼ばれるところで行うのがよいとされています。



礼拝の後に預言者の墓に行きたい場合、墓の前に礼儀正しく敬意をもって立ち次のように言います。

「アツサラームアライカ アイユハンナビーイ ワラハマトウツラーヒ ワバラカートウフ、アツラーフンマ サツリ アラー ムハンマド ワアラー アーリ ムハンマド カマ サツライタ アラー イブラーヒーマ ワアラー アーリ イブラーヒーマ インナカ ハミードウン マジード

アツラーフンマ パーリク アラー ムハンマド ワアラー アーリ ムハンマド カマー バー

ラクタ アラー イブラーヒーマ ワアラー アーリ イブラーヒーマ インナカ ハミードウン  
マジード

アシユハド アンナカ ラスールツラーヒ ハツカン、ワ アンナカ カド バツラグタツリサー  
ラ、アツダイタルアマーナ、ワナサハタルウンマ、ワ ジヤーハツタ フィツラーヒ ハツカ ジ  
ハーディヒ、ファ ジヤザーカツラーフ アン ウンマテイカ アフダル マ ジヤザー ナビー  
ヤン アン ウンマテイヒ」



それから少し右に行きアブーバクルにサラームし、彼のためにドウアーをします。さらに右に行  
き、ウマルブヌルハツターブにも同様に行います。

アツラーに近付くために預言者の部屋に触ったり、そのの周りをまわったり、ドウアーの時にそち  
らに向かないようにしましょう。ドウアーはキブラの方向に向かって行いましょう。

女性はお墓に行つてはいけません。その場で預言者にサラームし、彼のためにドウアーをしましよ  
う。そのサラームはマラーイカによって預言者のもとに届きます。

男性は特に、アルバキーウと呼ばれるアルマデーナの墓地を訪れることが奨励されています。そ  
して次のように言います。

「アツサラーム アライカ アハルツデイヤーリ ミナルムウミニーン ワ インナー イン シ  
ヤーアツラフ ビクム ラーヒクーン、ヤルハムツラーフルムスタクデイミーナ ワルムスタアヒ  
リーン、ナスアルツラーハ ラナー ワラクムルアーフィヤ、アツラーフンマ ラー タハリムナ  
ー アジエラフム、ワラー タフイトウナー バアダフム、ワグフィルラナー ワラフム」

もし望むならば、誰かにガズワ、ジハード、災難、殉教など、預言者とサハーバたちに起こったこ  
とを語ってもらうこともよいことです。そして、そこで、殉教者たち（ハムザ（預言者のおじ）な  
ど）にサラームをします。

---

2004年 アラブイスラーム学院